

---

第4回江府町議会定例会会議録（第2日）

平成22年6月15日（火曜日）

---

議事日程

平成22年6月15日 午前10時開議

日程第1 町政に対する一般質問

---

出席議員（9名）

1番 宇田川 潔	2番 川上 富夫	4番 越 峠 恵美子
5番 日野尾 優	6番 上 原 二郎	7番 長 岡 邦一
8番 田 中 幹 啓	9番 川 端 雄 勇	10番 森 田 智

---

欠席議員（なし）

---

欠 員（1名）

---

事務局出席職員職氏名

事務局長 ————— 梅 林 茂 樹

---

説明のため出席した者の職氏名

町長 ————— 竹 内 敏 朗	副町長 ————— 宮 本 正 啓
教育長 ————— 藤 原 成 雄	総務課長 ————— 影 山 久 志
企画政策課長 ————— 矢 下 慎 二	町民生活課長 ————— 西 田 哲
福祉保健課長 ————— 本 高 善 久	農林産業課長 ————— 瀬 島 明 正
建設課長 ————— 太 田 厚	教育振興課長 ————— 山 川 浩 市

---

午前10時00分開議

○議長（越峠恵美子君） 本日の欠席通告はございません。全員出席であります。

ただいまより平成22年第4回江府町議会定例会第2日目の会議を開きます。

本日の議事日程は、配付のとおりであります。

直ちに議事に入ります。

---

### 日程第1 町政に対する一般質問

○議長（越峠恵美子君） 日程第1、町政に対する一般質問。

質問者の順序は、通告順のとおり日程に従って行います。なお、質問方式は1項目ごとに質問と答弁で進行しますので、再質問、再々質問があればその都度行います。

なお、1人につき質問、答弁を含めて60分を目途に進行します。

質問者、日野尾優議員の質問を許可します。

5番、日野尾優議員。

○議員（5番 日野尾 優君） おはようございます。議長のお許しをいただきましたので、通告をしております事項について質問をします。

第4次総合計画について。計画の取り組み状況は。

社会経済情勢が目まぐるしく変わっていく今日、地方公共団体を取り巻く環境は非常に厳しいものとなってきています。限られた財源の中で効率的な行財政運営を行い、町民にとってより満足度の高い行政サービスを提供できる行政システムの構築等のため、第4次江府町総合計画を樹立しております。

自治体総合計画の源流は、昭和の大合併時に作成された新市町村建設計画にさかのぼることができます。1966年、自治省に置かれた市町村計画策定方法研究会が報告書をまとめ、それを受けて1969年の地方自治法改正で市町村の基本構想の議決化が定められています。改正にあわせて、自治省は市町村の基本構想策定要領というマニュアルを通達し、現在まで続く基本構想、基本計画、実施計画という3層構造がモデル化されたというように聞いております。

このような中、我が町は第4次総合計画について平成18年度を起点とし、27年度までの10年間を計画期間として策定し議会も承認しました。行財政改革は重点事項の5項目を掲げ、その計画は推進期間を設け、前期5カ年について基本構想を具現化するため現状や課題について示すとなっております。前期5年間といいますと、本年が、22年がその前期5年間になります。

行財政改革の重点事項として、1つは事務事業の見直し、適正な定員管理、3つ目が財政運営の健全化、4つ目に民間委託等の推進、5つ目に町民との協働による行政推進でありました。少子高齢化、人口減少、低炭素化、省エネルギー等の社会が到来した。厳しい財政状況のもとで、地域主権を掲げる政権交代があり、分権改革は新たな段階を迎えました。ある日突然、定額給付

金や子ども手当が降ってくるような、ありとあらゆる政策分野で、国法、国の法律や制度の改正に右往左往される現状があります。究極的な計画行政は夢のような気もいたしますが、つくる計画からする計画への転換が必要であります。私は、計画目標には4つの種類があると思います。

1つは、あきらめ目標、やれるはずがないと、ことが1つ。願望目標、できればやりたい。もう一つ、強制目標、やらねばならぬ。次に、納得目標、やれる、やるぞ、に分類できるのではないかと私は思います。総合計画は計画として、毎年度の予算措置で十分の意見もありますが、毎年度の実施状況や予算等勘案して、時にはローリングシステム、計画と実績の相違をチェックをして、食い違う場合、計画の修正が必要と思います。

将来に向け、引き続き地域発展の基幹的条件である産業基盤、社会基盤の整備を進めるとともに総合的な地域開発に具体的に取り組む必要があります。計画の進行管理、評価、修正等の進捗状況と活力ある地域づくりの取り組みについて、町長の所見を伺います。以上です。

○議長（越峠恵美子君） 答弁を求めます。

竹内町長。

○町長（竹内 敏朗君） ただいま日野尾議員さんの方から、第4次総合計画について計画の取り組み状況はということについて御質問がございました。

本年度は、先ほどもお話になっておりますように、平成18年度に作成されました総合計画、10年間計画の前期を終わらして、いよいよ来年度からの後期の計画に着手をさせていただくところでございます。また、あわせて平成18年度に作成されました行財政改革の中の江府町まちづくり計画の最終年度でありまして、総合計画の見直しと同時期に当たっております。そのため、第4次総合計画の後期分の見直し作業に反映させるために、現在各課で江府町まちづくり計画の評価作業を進めております。ほぼまとまりつつあるところでございます。この評価をもとに、今後の予定といたしましては7月中旬までには後期基本計画の概要を取りまとめ、7月下旬から8月上旬に総合計画審議委員の皆様へ第1回目の協議を行っていただく予定にいたしております。その後、10月を目途に具体的な事業を計上した実施計画を取りまとめた上、財政見込みを勘案しながら実施計画を整理、調整してまいりたいと考えております。最終的には、来年の3月議会に第4次総合計画の後期基本計画を議会に提出させていただく予定にしております。

なお、実施計画の策定に当たりましては、議会にも御相談をして実施をまいりました、世界不況、日本の経済不況の中で過去3年間におきまして経済対策関連各種の臨時交付金が江府町にも交付されたところでございます。事業費ベースでいいますと、約12億9,000万ほどの事業ベースでございます。小学校の大規模改築から始まりまして、情報通信のインフラ整備まで

合わせますと、約12億9,000万ぐらいの事業規模になっております。そのうち交付金が7億5,900万、江府町に参っております。この交付金実施に、使途につきましては、後期の実施計画の中、今後の5年間のものを前倒しで対応していきたいということで、特に施設修繕や新規の事業、小・中学校、また保育園の対策等々に重点配分をし、事業を実施をしているところでございます。本年度におきましても、明許繰り越し、先日御報告いたしましたけども、繰り越し事業として実施をしております。例えばという部分でいいますと、情報インフラ整備を今、繰り越し事業で対応させていただくようにしておりますけども、これらも将来の5カ年の中で本当にできたかなと、なかなか財政推計の上でおきますと難しかったのではないかなと、それらがこの臨時交付金によりまして前倒しができたこと、前期の最終年度におきましての対応ができたということは大きいものと考えております。

あわせて、おかげさまで財政推計におきましても交付金事業で実施ができたことによりまして、基金取り崩しを取りやめ、基金を保留しながら財政健全化に向かつての安定期に入ったというふうにも判断をいたしておるところでございます。そのようなことを勘案しながら、先ほど申し上げました日程に基づきまして後期の基本計画並びに実施計画を作成してまいりたいと思います。あくまでも総合計画で目指しております元気で明るい輝きのあるまちづくりに向けての施策にいたしていきたいというふうに思っておるところでございます。

また、議員さんがおっしゃいましたつくる計画からする計画への転換が必要である。まことにそのとおりだと考えております。私も実施計画におきましては、きちんと行政サービスの向上、住民の皆さんが元気になっていただく、明るくなっていただく、そのような実施計画に調整をしていきたいと思ひますし、それぞれ過程を通じまして議会の方にも御報告はさせていただく予定にしております。

また、本年度から、おかげさまで言っているのでしょうか、江府町も過疎地域に再度指定されました。本来は独立しなければいけませんけども、財政部分を考えますと過疎対策の優遇措置というのは大変魅力あるところでございます。先般、5月に担当課の方で県の説明会を受けまして6年間の計画を策定する作業に入ったところでございます。この過疎計画につきましては、県、国に提出する期限が定められておりますので、各市町村とも本年9月にはそれぞれの議会に提出をし議決をいただくように予定をして進めておるところでございます。従来から公共事業なかなか難しいといいながら、米沢地区、現在、美用地区で下水道工事をやっております。私としても、下水道はきちんと整備をしていきたいという基本方針のもとにやっておりますが、杉谷地区も次に控えております。これらも過疎地域に編入されましたので、有利な財源を使いながら事業が順

調に進捗できるのではないかと考えております。

過疎計画につきましても、本町でも7月中旬には県の概要ヒアリングを受けるようになっておりますので、今、各課に指示をいたしまして担当課によりまして作業に入っております。今月中には第1次原案を取りまとめまして、整理、調整、県のヒアリングを経まして、9月議会には江府町過疎地域自立促進計画案を提出をさせていただきたいと考えております。これらのように、総合計画の後期に向かって、また過疎地域としての過疎計画に対しまして、先ほども申し上げましたけども、する計画にきちんとしていきたいなと考えておりますし、臨時交付金で今後想定されました5カ年の事業を前倒ししておりますから、より一層の行政サービスに向けて対応してまいりたいというふうに考えております。

以上、答弁にかえさせていただきます。

○議長（越峠恵美子君） 再質問があれば許可します。

日野尾議員。

○議員（5番 日野尾 優君） ただいま町長から後期の総合計画を日程スケジュールを定めて取り組みがされる、そういうようにぜひやっていただきたいと思います。先ほど私も計画目標に4つの目標を掲げておりましたが、やっぱり納得目標、やれる、やるぞと、そういう方向でぜひお願いしたいと思っておりますし、それから特に総合計画の中に小学校の統合後の跡地、校舎の、後期計画に出して方向づけを早くしていただいて、住民にその方向づけを早くさせていただきたいと言って質問を終わります。特に、答弁は要りませんが、そういうことについて特にお願いしたいと思っております。

○議長（越峠恵美子君） 竹内町長。

○町長（竹内 敏朗君） 1点だけ、御答弁というよりは申し上げておきたいと思っております。先ほどございました統合後の学校施設につきましては、順次それぞれ企業進出の関係等含めまして、また交流施設として位置づけをしながら対応していきたいというふうに思っておりますけど、御承知のようにこれらも改造、またそれぞれに対しまして多額の財政支出も必要でございます。そういうことも配慮しながら、今後の実施計画について十分議論をしながら年度計画を定めながら対応してまいりたいと思っております。

なお、本町におきまして、今大きな課題となっておりますのは江府中学校、あり方委員会で議論いただいておりますけども、調査の問題、中学校のあり方、それから調査につきましても以前からいろいろ議論がございましたけど、いまだちょっと先見通しを立てておりませんが、こういう機会に議論を深めてみたいと、また議会の方にも御相談等もさせていただく機会をいただ

ければというふうに思っております。

○議長（越峠恵美子君） 次の質問を行ってください。

日野尾議員。

○議員（5番 日野尾 優君） では、続きまして、人口減少への対策について。定住促進は。

我が町も人口、戸数の減少、核家族化、地域社会の連帯感の希薄化、高齢者の急速な進行で集落の自治機能が低下し、集落は社会的共同生活の維持が困難な状況に追い込まれている状況もあります。

人口減少の問題ですが、厚生労働省の人口動態統計、概数で09年度の合計特殊出生率は前年と同じ1.37で、06年以降続いていた上昇傾向が4年後にストップ、赤ちゃんの出生率も減少とのこと。我が町の21年度は14人出生、生まれて、50人が死亡。そうしますと、自然減率がマイナスの1.01%で、平成18年、19年、20年の各年度は出生、生まれた人は11人で特に20年度は死亡された方は63人で自然減率はマイナスの1.4%。過去20年では、人口減少率の最悪の年でした。我が町、本年5月末の人口は3,531人であります。町の人口は、10年前に比較して約580名減少しております。また、古いデータですが、21年3月時点で平成30年の人口推計を見ますと、平成30年には3,060人となるような予想があります。そうしますと、8年先には現在より471人少なくなる予想です。このままの人口減少では、税収減や経済活動、地域社会の縮小をもたらし、町の活力を低下させます。そのためには、人口増加につながる魅力ある施策をすることです。

例えば、ふるさと江府定住プラザ設置して、移住希望者が必要とする情報、例えば住居情報や就業、農業情報等、暮らしの情報を一元的に集約し、希望者の移住計画段階から最終段階の移住までサポートするなど、また江府町の食や農、物産や文化に関心がある方を対象に、町外にいなから江府町の一員として江府町を体験していただくことを目的として、江府町で暮らす江府町民制度を創設し、年会費をいただき、その会費を活用して一般的な観光ガイドや情報誌に載らない情報を提供し、江府町、食や農産物を自宅にいなから味わえるように届けるとか、農家体験とか江府ファンを確保し、今後の移住、定住促進に結びつけたらどうでしょう。

先日、県民カレッジ主催講座、未来をひらく鳥取学で平井知事が「鳥取から発信する文化」で講演されました。地域から文化発信の必要を強く訴えておられました。また、知事は韓国で制作されるドラマのロケ地を鳥取県に選んでほしいと要請したところ内諾を得たということで、先日調査に来られたと。そのときの知事の話では、鳥取県でヘリコプターを貸してほしいとか、境港の大橋から飛び込んだらどうだろうかと、冗談な話をされましたが、それがどうもアクションの

ドラマのようなようですが、いうことを言っていました、江府町もせっきくの鳥取県が韓国ドラマのロケ地になるなら江府町も手を挙げて運動したらどうでしょう。その内容、私よくわかりませんが、これは知事の話なので、何か江府町もそういう働きをしたら宣伝効果なり経済波及効果は大きなものがあるのではなからうかと思えます。

それから、空き家の活用について。私は平成14年3月定例議会で8年前、空き家の活用質問しております。先日、新聞報道によりますと、県が空き家情報一元化の見出しで田舎暮らしを望む県外の人に多くの空き家情報を提供しようと、県の宅地建物取引協会と連携して同協会のホームページ内に田舎物件情報検索ページを7月に立ち上げるとのことです。また、婚活支援事業については、昨年9月定例議会でも提言していますが、何とかアクションを起こしていただいて一人でも多くの結婚ができるようなことを取り組んでいただきたいと思えます。

そういうことで、人口減少への対策は、また定住促進について町長の所見を伺います。以上です。

○議長（越峠恵美子君） 答弁を求めます。

竹内町長。

○町長（竹内 敏朗君） 日野尾議員さんの方から、人口減少への対策、定住促進についての御質問いただいたところでございます。

少子高齢化につきましては、江府町ばかりではなく全国津々浦々でこの大きな問題になっておるところでございますし、全国的にはさまざまな施策が行われているところでございます。例えば、定住奨励金などの金銭面での支援策や、住宅対策、子育て対策など、多面的に取り組まが行われているのが現状でございます。

さて、江府町の人口減少の状況としては、学生や就職などの転入転出の社会減はここ10年間の平均で22人の減少となっております。出生と死亡の自然減は平均39人、先ほども日野尾議員の方からお話もございました。また、ここ5年間の出生は平均約12人となっております、特に出生の減少が重要な課題ととらえているところでございます。私も制度を設けまして、赤ちゃんが生まれますと奥大山の水をお持ちし、お祝いをし、健康に育ててほしいということ、またお母さんにもしっかりといいきれいなおいしい水を飲んでいただいて、元気に子育てに励んでいただきたいということで、最近回るところでございます。特に最近、結構担当課からメールが鳴りまして予定がどんどん入ってきているようで、何かうれしい気がいたしておりますけれども、そうはいいながら、10数名というのが現状でございます。このようなことによりまして、人口減少、定住対策については、出生の増加が期待できる年齢層への対策が一番の課題だと思いますし、結

婚という部分、赤ちゃんをはぐくむ前の部分の対策も重要な部分、先ほども最後の方でおっしゃっていただきました婚活の問題につきましても重要な施策だというふうに考えているところでございます。

一つは、職場という部分、定住、Uターン、Iターンにつきましても職場という部分がどうしてもひっかかってまいるところがございますけども、私どもは江府町からの通勤圏域も含めた雇用の確保ということ、大変経済的には厳しい状況ではございますけども、町内の企業誘致というものも当然限度があるわけがございますから、鳥取県西部、特に米子市を中心とした地域への企業進出というものが私どもの町にとりましての雇用範囲ではないかと。そういうものにも連携をしながら、西部、それぞれ市町村が連携しながら積極的な協力体制を築いていく必要があると思います。

今、西部市町村長の間でも、先般の西部地域経済の会議におきましても、やはり一緒になって企業誘致をしていこうと、それに努力をしようと、お互いに地を言わないで鳥取県西部という一つの大きな枠の中で頑張っていこうという考え方で協力を、連携をしてるところでございます。

最近、お話にも出ております米子市に進出いたしました電気自動車工場では今後800人程度の雇用が予定をされてるところでございます。以前にありました、コールセンター社員募集情報のように、西部圏域市町村で情報共有が図れるように努めてまいりたいというふうに思っております。企業にとりましても、働いてもらえる人の確保は進出の大きなポイントになる場合がございます。例えば、本年、工場をつくり来年には100人からの雇用が要ると。じゃあ、その100人の雇用が確保できるかということも大きな企業誘致の一つのポイントになっているのが現状でございます。先般、県の町村長大会がございまして、智頭の町長さんとお話をしました。鳥取道ができましたので、企業誘致が進んでいいですねということを行いましたら、結構厳しいんですよ。結局、やはり何かといいますと雇用の問題でございます。何人必要だけでも、これが町の方で確保できますかというようなところが大変苦しい部分があるというようなこともおっしゃっておられました。そのように企業誘致とあわせて雇用の確保ということも大きなポイントになっているようでございます。そういう意味では、鳥取県西部統一で考えた場合にはしっかりと対応ができる状況が生まれるんじゃないかというふうに判断をしておるところでございます。

あわせて、雇用とともに重要なことは生活環境、子育て環境の整備であります。子育て環境につきましても、私も一生懸命施策を、大きな財政支援ではないんですが、小さなことでも多種多様の施策を講じさせていただいております。現在では、保育園から小・中学校までが連携した取り組みを行っております、子供たちの健やかな発達や学力向上などに教育委員会の方で取り組

んでいただいているところでございます。

また、子育て対策としては、先ほど言いました小さなことですが、奥大山の地域のすぐれた資源をお届けをし、大きく育ててほしい、お母さん方も大きく育ててほしい、そのような願いも含めましていろんな施策を講じてるところでございますけども、22年度は御承知いただきますように中学校まで子供の医療費の個人負担部分を大幅に軽減をいたした施策を講じさせていただいてるところでございます。

また、住環境対策としての空き家利用でございますが、実は本年、町民生活課の方で区長さんを通じまして空き家の情報を再度収集をさせていただいております。多くの空き家が目立つわけでございますけども、今の報告をいただいた中を見ますと仏壇等がそのままになったものや、物置として使っているものが多く、なかなか他人に貸し出すとか売り出すとかいう御返事が少ないように見ております。極端に少ないと言った方がいいのでしょうか。ちょっと調査結果がまとまれば、また議会にもその状況も報告をさせていただきたいと思っております。

また、新たな若者世帯用のアパート等の建築につきましては、当然、財政推計、実施計画の中でも議論をさせていただきますけども、今、町内の町営住宅を含めます貸し家で見ますと、町営住宅については単身赴任用が1部屋あいてるようでございますけど、そのほかは世帯用は埋まっております。それから、商工会振興の方で佐川に建てていただいている分は、けさ確認しますと残念ながら2部屋あいてるようございまして、もし何か事情があれば米子の方でお住いの方でも町内の方で地元に戻っていただくとかいうようなこともあっていいのではないかと思います。情報を共有化できればと思いますので、情報提供をさせていただきたいと思っております。当然、私どもも将来的に土地また施設について必要性に応じて検討していきたいと思っております。ちょっと残念なのは、従前、町営住宅も結構申し込みがございまして抽せんをしとったんですけども、最近なかなかその状況になってないというので需要がどうなのかなというふうに心配もいたしてるところでございます。そのような抽せんができるほどの需要を喚起していきたいと思っております。

あわせて、生活環境の整備といたしまして、ブロードバンド、光ケーブルの情報、地域情報通信基盤整備をやっております。これらも、やはりUターン、Iターン、また移住、定住に大きな力を発揮するものと考えております。都市部と、例えば東京都と同じ情報環境を整えることも大きな誘い水になるではないかというふうに判断を進めておりますし、事業を順調に進めさせていただきたいと思っております。

なお、結婚問題につきましては、現在、町内の仲人さんといいますが、積極的に仲人さん、お世話をいただいている方が先般、町長室においでになりまして、私もちょっと投げかけておりました。

て、一度町長室で話ししましょうよということで、二、三人に声をかけておりましたらおいでいただきました。実は、このたびですが、来る6月19日に奥大山縁結びの会の設立をいよいよしていただくように段取りができました。行政は余りタッチいたしませんで、おいでいただいた皆さんが自主的に代表者になりまして設立準備会を立ち上げていただき、今月号の町報だと思えますけど、そのような呼びかけを載せさせていただきます。19日の午後7時から防災情報センターで、そのような会で何人集まるかわからんけども、まず立ち上げてみたいと。お互いに情報交換ができればうれしいなというやなことをおっしゃっていただきまして、私も喜んで賛成をさせていただきますし、必要があれば行政といたしましても後押しをしていきたいというようなことを申し上げてるところでございます。議員の皆さんでそういうお世話をいただけるような方がございますれば、どうか19日午後7時にお出かけになってそういう方々の輪に入っていたければ幸いですというふうに思っております。

そのような動きも出てまいりましたので、従前、日野尾議員さんおっしゃいました一般質問等、いただいておりますけども、ようやく動きが民活の方でできましたので、私も大いに期待をしているところでございます。

いずれにいたしましても、若い人、また多くの町民、そしてまたあわせて先ほどもございました韓国ドラマのロケ、本町ではどうも情報としますと2カ所で下見をしてるようでございます。東郷湖の辺が中心のようでございますけども、県の観光連盟通じまして町の観光連盟等にも今後情報が入ってくると思います。県の方も予算を6月定例議会に二千数百万という大きなお金を用意しておりますので、あわせてまた情報提供もさせていただきますし、町の方にも情報が来ることだと思います。これらは、交流人口の増加ということで町に一つの活力を与える方法だというふうに思いますので、積極的に対応してまいりたいというふうに思います。

いずれにいたしましても、明るい元気で輝くまちづくりに向けて重要なことだと思っておりますので、今後努力をしてまいりたいと思いますので、議会議員の皆様の御協力もよろしくお願い申し上げます、答弁にかえさせていただきます。

○議長（越峠恵美子君） 再質問があれば許可します。

日野尾優議員。

○議員（5番 日野尾 優君） 定住促進は、言葉では言いますが、なかなか難しい面もあるかと思えます。ただ、この間の新聞で気になる記事がございました。6月9日に人口減少歯どめ、移住定住対策を推進で成果は市町村間で大差があると、町長も見られたと思えますが、そういう記事がありました。それで、いろいろ各市町村で取り組みの状況でいろいろあるようですが、県

は地域の間で成果に大きな隔たりが生まれていることから、市町村間での情報交換の場を設定、ノウハウを共有する取り組みを進め、11年度末までの目標として目標を掲げ、移住定住目標1,000人ということですので、やっぱり県もそういう支援もあるようでございますので、県と連携をしてノウハウを共有して情報公開しながら取り組んでいただきたいということで、お願いしといて質問を終わります。

○議長（越峠恵美子君） 答弁を求めます。

町長。

○町長（竹内 敏朗君） 1点だけ申し上げます。移住の場合、いろんな形がございます。例えば農業を中心に果樹園をやってみたいということでおいでになるような地域もございます。ただ、本町におきますとなかなか農地も大きな農地もございません。そうかいいながら、農業で立ち行くわけにはなかなかいかない規模だと思います。そういうことをあわせると、やはり兼業農家といえますか、兼業というような形の体制ができなければ、なかなか住居の問題もございませども難しい部分もございませう。そういう点を考えながら、できればUターン、Iターンというような形、Iターンが移住になるわけでございますけれども、そういう環境を一つずつじっくりと構えていきたいなというふうに考えておるところでございます。よろしく申し上げます。

○議長（越峠恵美子君） これで日野尾優議員の一般質問は終了します。

---

○議長（越峠恵美子君） 続いて、質問者、川上富夫議員の質問を許可します。

2番、川上富夫議員。

○議員（2番 川上 富夫君） 失礼します。議長のお許しを得ましたので、通告いたしました教育行政についてと、そして先ほど日野尾議員さんがおっしゃっていただきました人口減少についてもどうしても私も気になるところでございます。それにあわせて、一番といいますか、大事な部分、教育というふうなもの、子育ての部分について御質問をさせていただきます。

保育園、小学校、中学校の一貫した教育、子育てについてどういうシステム構築ができるのかということをお伺いしたいというふうに思っております。江府町のこれからの町づくりに必要なのは、将来にわたって人々が安心して希望を持ってこの地に生活基盤を築き、子育てが安心してでき、そして小学校、中学校までの一貫した教育システムの構築が今最も重要に考えております。

今月から子ども手当が中学校までの子供を対象に、1人月額1万3,000円が、現在当初の計画の半額でございますけれども、江府町においては6月の7日から支給が予定されてるというふうに聞いております。対象者は278人ということでございます。受給者156人、全国で1,

735万人、2兆2,554億円が今年度予算化されております。大変、大きな予算でございます。次年度からは、2万6,000円がもらえる見込みは今のところありません。厳しい今日、お金をいただけることは大変に助かりますが、ないよりもあった方がよいことは決まっております。しかし、少子化対策の一環になるのということでは、これはこのツケが将来に残ってくるというふうに思っております。子ども手当は、国に今のところ任すというふうなこともあろうと思っております。しかし、江府町の将来に子育て、教育の投資は最重要だというふうに私は考えます。

平成22年の3月末人口の3,551人、0歳から15歳までの人口は372人です。約1割がこの子供たちでございます。5月1日現在では、6歳までの未就学児は87人、小学生は137人、中学生においては100人というふうに、子供たちがこの将来を託していくわけでございます。将来を担う教育に予算の割合としては、約6%というふうに思っております。

まず、保育園についてでございますけれども、子育ての支援が、これはやはり一番充実しなくてはならないのではないかとこのように思っております。子供が元気で伸び伸びと育ていける町ではなくてはなりません。若い世代にとって保育料は経済的に負担の大きさ、家庭と仕事を両立の難しさ、また育児についても子供を産み育てる経済的にも心理的にも大変大きな負担でございます。新保育制度、そういうふうなものにも移行するという話もあります。また、地域主権の一括法制度の追加というふうなものが見込まれております。そういう中で、地方においてもやはり子育てというのは大変に重要に思っております。その責任は、地方に任されていくというふうなものになってこようと思っております。

ちなみに、江府町では国の基準に比べると確かに安くはなっておりますけれども、給与自体も低いので子育て、家庭応援を大切にしたいというふうに私は思います。ちなみに、単独で町づくりを進めている隣の県の西粟倉村では、保育基本料が8,000円月額というふうに、これは居住者のみだそうですが、村外居住者は国の基準どおりだというふうに聞いております。人口にいたしまして、約1,600人弱の小さな村でも何とか単独で生きる村づくりをしようと、そのためには子供をしっかりと育てていこうというところがあるわけでございます。そして、それを育てていく、また就労の場所もそういうふうに根づかせていくということで、Iターン、Uターンというふうなものもあるというふうに聞いております。

我が町においては、就労の場所は西粟倉村に比べれば比較的企業進出等も進んでおりますし、それから先ほど町長の答弁にもありました米子西部圏域を含めたところも踏まえて、非常にまだこれから子育てについてしっかりと力を入れることによって、子供たちがここに育ってくる、Iターンができる、Uターンができる、そして子供を産んで育てたいというものができるといふ

うに思っております。決して、8,000円というのは安いわけですが、この財政の中でどうなのかというふうなことはあろうかと思っております。これは一つの見方として大いに、この10年、15年、30年、この将来にわたって江府町を生かしていく、そのためにはぜひともこういう施策は子育てのためには欲しいというふうに思っております。思い切った保育料の軽減、就学前の子供たちへの教育の進め方、指導も小学校そして教育委員会、そして保護者の皆さんの意見も聞きながら、子育て、教育の向上に連携を密に行っていくことが重要だと思っております。町長の所見を伺うものでございます。

そして、小学校でございますけれども、昨年4月より4校の小学校が江府小学校1校に集約され、各集落から町営バスによる通学が行われております。ことしの入学生は22人でございます。平成25年から10人台にぐっと減ってきております。中学校においても生徒が、生徒数を見ると減少の一途をたどっております。全国的に、特に日野郡内においての減少は顕著なものでございます。そして、中学校においては校舎の、建てられたのが昭和35年というふうに聞いております。そして体育館につきましても37年。50年がたとうとしておるわけでございます。ただ教育の場所だけして、江府町からなくしてはいけませんし、この財政が許す中でどういうシステムをつくっていくかということは本当に考えていかなければならないというふうに思っております。学力の確実な定着を図ること、そして優しく、たくましさをあわせ持つ児童生徒の育成をそういうふうに努めるためにも、充実した学校生活を送ることができるよう教育環境の整備に、先ほど言いましたようにぜひ努めていただきたいというふうに思います。

そして、ここに来て義務教育のあり方について変更が出てきました。小中一貫教育の進めでございます。隣の町、日野町においても21年から、そして日南町においても昨年からの取り組みが進められております。伯耆町についても同じことでございます。何とか教育をしっかりとしたものになりたいというふうな思いがあるというふうに考えます。江府町もそのことはぜひ、これからは、連携をされるというふうに聞いております。

経済優先で教育に対して他国と、気がついたときには差がついたというふうに気づき、やっとなここに来て教育に国の方も将来を危惧されることを懸念して力を入れてきております。江府町においても、小中連携を持った教育は今取り組みをなされておるわけでございますけれども、まだまだこれからというふうに思います。私は、江府町の将来の人材育成ということが、子育て、そして小中を連携した江府町の地域、企業を巻き込み、県、国、大学等の教育機関との情報交換、そして交流を初め、連携を密にすることがほかの地域にない教育システムづくりができるんじゃないかというふうに思っております。例えば、小・中学校で外国語、特に英語教育、英会話ができる

教育、そういうふうなものが江府町の一貫教育の中で進められるというふうなものも、一つのものではないかと思っております。他地区から来られた人がおっしゃいます、やはり教育のシステムが本当にしっかりと確立されたところは、やはり将来にわたって町づくりがしっかりしていくというふうにも聞いております。これから、子供を産んで育てようとする若者が江府町に移住し、Iターン、Uターン、そして同居して子育てをして、そうしてできる町づくりが私は将来へつながると思っております。

ちなみに、小学校の将来の人数を申し上げますと、ことしは100人でございますが、23年度から小学校は89人、83人、67人と、32年には40人台まで今のところは生まれた子供の数をするとするということふうに、今の調べでは、済みません、これは中学校でございます。あるというふうに聞いております。小学校においても、今137人の子供たちが5月1日現在ではおるわけですが、平成27年には100人を切って95人というふうに減っていきます。先ほど町長が子育ての前の婚活を含めたお話をされました。それを含めて、この子育てしやすい町づくり、そして教育にしっかりと力を入れた町づくりが、私はこの江府町の将来における町づくりの一番ではないかというふうに、今深く考えるわけでございます。町長の所見を伺います。

○議長（越峠恵美子君） 答弁を求めます。

竹内町長。

○町長（竹内 敏朗君） 川上富夫議員の方から教育行政について質問いただきました。保育園、小学校、中学校の一貫教育についての御質問もいただいたところでございます。

初めに保育園の関係についてですが、質問にもありましたように現在、保育料は国の基準額に比ばまして数十年前からと申しますか、随分前から軽減を図って子育ての支援を行っております。現在で申しますと、およそ年間420万円の軽減を図って対応をしているところでございます。また、御承知いただきますように保育サービスにおきましては、平成21年度から未就園児が対象となります一時保育サービスを始めております。実績といたしましては、18人の利用をいただいたところでございます。また、今年度からは保育園給食の完全給食を実施をいたしております。小学校の給食におきまして、本町の生産されました特別栽培米を供給をしたいということから始めまして、保育園の方からも園児に是が非とも完全給食をやっていききたいというような申し出を受けましたものですから、本年度から施策をしております。鳥取県西部地区公立保育所では初めてでございます。子供たちも温かい御飯になってよく食べる様子になってきたようでございますので、また見てやっていただければ幸いですというふうに思います。

あわせて、今年度は園庭の芝生化を実施し、現在作業に入っているところでございます。園児

が伸び伸びと遊べる環境づくりを計画しております。当然、教育行政と福祉保健課の行政と、直轄町長部局とが連携をとりながら子育て支援を行ってまいりたいというふうに考えておるところでございます。私は、保育園、園庭の広さも含めまして、鳥取県西部で見ましても園長等の話を聞きますと環境的には相当すぐれてるというふうに考えております。保護者に対応するために、土曜保育また遅番とかいうこととして、保護者の負担を軽減しながらお預かりをさせていただく施策も従前から実施をしているところでございます。

次に、小中一貫教育について御質問いただきました。私、町長部局の問題と教育行政とが同一の答弁になろうと思えますけども、御勘弁をいただきお聞き取りをいただきたいと思えます。

共通の目標、指導内容を指導方法等が義務教育9年間を貫いて設定され、実施される教育と位置づけられております。施設の設置形態としては、施設一体型一貫校、施設分離型一貫校、施設分離型連携校と、地域の状況によりさまざまな方法が考えられております。全国的な先進例を見ますと、9年制の義務教育学校、小中一貫校を設置したり、小学校6年、中学校3年のカリキュラム区分を弾力化したりして、小・中学校間の接続を改善するための仕組みについて、さまざまな研究、また取り組みがなされております。

さて、本町は昨年小学校が統合となり町内に小学校が1校、中学校が1校、そして保育園も1園となっております。このことを受けて、特に御質問ございました保育園から中学校までの一貫した連携を重視をさせていただいております。小学校統合に向けまして、平成19年度に立ち上がりました学校統合準備委員会では、保育園、小学校、中学校の連携を視野に保護者アンケート集計結果や、総合的な児童の実態を踏まえまして学校教育目標等検討され、その中で生きる力やたくましさを育てることや、温かい人間関係を基盤として意欲を持って学ぶ子供の姿などが話し合われているところでございます。その結果、江府小学校の校訓といたしまして、江府中校訓、「しなやかな心と体」、自主・自立、誠実・友愛、明朗・剛健の流れをくみ、また子供の国保育園保育目標、「意欲ある子どもを目指して～仲間達とともにさまざまな体験を通して生きる力を育てる～」等も意識しながら、たくましい心と体、自立、敬愛、鍛錬ができ上がっております。そのように、保育園、中学校、小学校の一体を意識しながら統合に向けても議論をし統合をしたところでございます。

小中連携の究極の形が小中一貫教育であり、まずは小・中学校間で何が課題となっているかを明確にし、互いに共有することから始め、実効性のある小中連携をいかに適した形で構成できるかが決め手になると考えております。

本町におきましては、既に小学校の先生が長期休業日、夏休み等に保育園に出かけたり、5歳

児健診の場にも小学校から出かけて子供の状況を確認しながら、保護者の教育相談も行ったたり、中学校の授業を参観しながら連携を図ったり、保育園の保育士も小学校の運動会等行事に参加をいたしてるところでございます。また、中学校の音楽、美術の先生が小学校に出向いて指導する、また英語助手につきましても外国の助手にしましても、小学校に当然出かけながら指導を行っております。小中一貫教育に通じる取り組みがなされておるところでございます。これらの取り組みの成果を生かしつつ、実施に当たっては教育の専門家である先生方の創意工夫と英知を結集し、より一層の連携を充実したいと考えております。

また、教育委員会の方でもそのような議論をいただいております。また、江府町には江教振といいまして、江府町教育振興会がございます。教育委員会、保育園、小学校、中学校との連携の組織もございますので、そこで十分連携を深めながら小中一貫校に劣らないそういう連携体制をつくり上げていただけるものと考えております。

また、生徒数の減少や校舎の老朽化など、江府中学校を取り巻く環境を調査し、将来のあり方を検討するため、委員15名で構成するあり方検討委員会を設置し、生徒数の推移等から見た学校運営、校舎その他の周辺環境の2つの視点を中心とした内容検討を行っていただいております。日野尾議員の御質問ございました、実施計画、将来計画の中でそのような議論の中間報告等もいただきながら、事業計画、いけば一番心配しておりますのは建物の状況でございます。できるだけ早くという思いでございますけども、以前、推計いたしますと約7億程度の費用が要るように考えております。子供たちが今減少しておりますから、私どもは各教室がいけば3つあって、多少の余教室があればいいと思いますけども、やっぱり基準がございまして、相当数のいけば図書室が要ったり、音楽室が要ったり、理科室、家庭科室、技術室とか合わせた学習する学級よりも多くの部屋が要るようございまして、思ったより大きなものが要るようです。しかしながら、将来の子供の人数を推計しながら規模的なものを判断していく必要があろうと思っておりますので、また財政的な投資については再度実施計画等の中で詰めてみたいというふうに考えております。是が非とも、1年でも早く環境を整えてあげたいと思います。

あわせて、従来から議会の御理解も得まして学級数を2学級に対応し、今御提案しております本年度の2年生の30数人おりますので、2学級でより密度の濃い教育をやりたいということで町で財政投資をして、先生をふやしておるところでございます。統一試験等も過去ございますし、本年もございましたけども、そういう結果を見ましても正直申し上げまして鳥取県西部では指折りの上位の部分に位置しておりますので、私も安心をし2学級制の効果というもの大きいというふうに判断しております。しかしながら、先ほど川上議員もございました将来を見ますと、1

0 数名の子供たちということになりますと、やはりいろいろお尋ねいたしますと 20 人を割るとなかなか厳しいなど、やはり 20 人以上、25 人程度が一番教育上はいいのかなというようなお話も聞きますので、心配をいたしてるところでございますけども、総合的な定住施策等々とあわせながら、やはり町づくりに向けての基礎的な部分として努力をしてみたいと思います。

以上、答弁にかえさせていただきます。

○議長（越峠恵美子君） 再質問があれば許可します。

川上富夫議員。

○議員（2 番 川上 富夫君） ありがとうございます。

ちなみに、保育料のことについてですけども、よその村のことですけども、8,000 円ということも出ております。確かに、何年前か江府町安いわけですけども、負担軽減を含めた中でこれから先、軽減はこれ以上はないよとか、また考えているとか、そういうところの前向きな答弁が私は欲しかったかなというふうに思っております。ぜひお気持ちをお聞かせ願いたいというふうに思っております。

それから、小中一貫校でございますが、町長の方からは確かに 9 年間一体型ということについて語っていただきました。特に、江府町においては分離型の、この一貫教育でないといろんなところはできないと思いますし、環境的にもそうだと思います。そういう中で、教育委員会の立場でこの一貫校について今後の取り組みを教育長の方からちょっと願えればというふうに思っておりますが、いかがでしょうか。よろしく願います。

○議長（越峠恵美子君） 答弁を求めます。

町長。

○町長（竹内 敏朗君） そうしますと、私の方からは保育料のことでございますけども、教育費 6% ということでございます。ただ、保育園の費用については民生費で計上しておりますので、それを合わせれば率的には結構上がってくると思います。ただ、私はやはり保育料の問題につきましても、保育園の総費用額、保育士を含めまして、そういう中におきましてやはり県の、今は交付金で参ります、昔は保育園に直接で明示して交付金が来よりましたけども、そういうものを勘案しながら、それはできるだけ安い上にはないんですけども、やはり程度というものがあろうと思いますので、その辺は検討をしてみたいなというふうに思います。

それと、私はもう 1 点追加で、余分なことになるかもしれませんが、子ども手当について政権与党鳥取県連に申し上げ、意見を申したことがございます、先般。といいますのは、子ども手当、各世帯に入ってまいりますけども、私が提案いたしましたのは町村に交付を願いたいと、町村で

子育てというのはいろんな事情で特色もあれば、またいろんな施策を講じたいという意欲もあります。ですから、そういう大きなお金を投資されるのであれば、子育てという限定のもとに町村に交付をいただき、例えば先ほどございました保育料を軽減し、子育て支援に回すとか。また、医療費を先ほど、町で努力しておりますけども、軽減の財源に充てるとか、そういうことで本来の総合的な子育てに活用できる部分があるのではないかということで、ちょっと意見を述べさせていただきとるところでございます。そのようなことも、続けて要望はしていきたいというふう考えております。

○議長（越峠恵美子君） 藤原教育長。

○教育長（藤原 成雄君） 済みません。教育委員会サイドではどうかという質問でございますが、町長が答弁された流れと私どもの思いは変わりません。が、特に小学校につきましては、昨年統合しましたので、まだ小学校としての基盤が1年や2年ではできておりませんので、新たな中学校との連携でカリキュラムを考えるというふうなことは少し先でないとなかなか手につけられないじゃないかなという気がしております。今できることを、さっきの町長の話もありましたように、お互いに連携しながらやっておりますので、究極的には連携教育をもって一貫教育になるだろうというふうにとらえております。ほかの町では、一貫教育という言葉の前にいろいろと進めておられますけれども、うちではできることからやりながら、何年か先には江府町の一貫教育はこれだというふうなものにもできればいいかなというふうな気持ちでおるところでございます。またいろいろ御指導をよろしく申し上げます。以上です。

○議長（越峠恵美子君） 再々質問があれば許可します。

川上富夫議員。

○議員（2番 川上 富夫君） 今の若者というか、20代、30代までの方々は、前に比べて、車は要らない、いい服は要らないというふうなもの世代の中で、今はおられます。私らの世代と全く違う部分の一つはあります。そうした中で、やはり目に見えるものの費用が少ないものには、確かに必要かなというふうなことはこれから出てきます。これは、価値観の問題かもしれませんが、そういう部分のところも全く視点を変えながら検討していただきたいというふうなことが、この子育ての保育料については必要かなというふうに思っております。従前の私たちが今考えている考え方とやはり違う価値観の問題の中と、これだけ経済が疲弊してる中で金額というふうなものは、幾ら安くなっててもやはり高額なものだというふうに聞いておるわけでございます。その辺のところ、財政の部分もあろうかと思っておりますけども、この将来の江府町をどう育てていくかというふうなことに対しての投資は、これは今していかなければいけないというふう

に思っておりますので、真剣にお考え願いたいというふうに思っています。

それから、もう一つは教育長さんからの答弁で、小学校の基盤がなかなかできないから何年か先だというふうな御答弁でございました。何年か先というふうなことではなく、子供たちは既にもう1校になってきて育っていきよるわけです。それを何年か先というふうな感覚でこれ進むというふうなものではなくて、それはあえて、これは将来の子供たちにおくれてというふうなことで私は思っております。おくれずに、これは並行した中でぜひ将来を見据えた一貫教育、そして特徴ある江府町の教育システムをつかってほしいというふうなお願いをいたしまして、私の質問は終わります。よろしくお願いいたします。答弁は要りません。

○議長（越峠恵美子君） これで川上富夫議員の一般質問は終了します。

以上、一般質問を終了します。

---

○議長（越峠恵美子君） 以上で本日の議事日程は全部終了しました。

これをもって散会とします。御苦労さまでした。

午前11時09分散会

---